

## 特集：2010年度日本数学会出版賞受賞者のことば

### 東北大学附属図書館「東北大学和算ポータル」

この度、東北大学附属図書館が提供するウェブサイト「和算ポータル」に対して日本数学会出版賞が与えられたことを大変名誉に思っています。東北大学の諸先輩が築きあげてくださった努力と成果をこのような形で顕彰していただいた日本数学会に対し大学と附属図書館を代表して心より感謝申し上げます。また、附属図書館が来年百周年を迎えるにあたり、なによりの祝砲とも考えております。

本学関係者はこれまで出版賞に関係深く、お名前を列記すると、第1回(2005年)林隆夫氏、第2回(2005年)佐武一郎氏と鳴海風氏、そして第6回(2010年)室井和男氏と当館です。いかに本学が数学の出版・教育関連の活動の場を持っているかを如実に示しています。

「和算ポータル」(和算資料全文画像データベース)の基になったのは当図書館が有する「和算関係文庫」です。東北帝国大学理学部教授で初代の図書館長でもあった林鶴一(1873~1935)と、数学教室創設時の同僚であった藤原松三郎(1881~1946)の旧蔵書および両教授の収集した和算関係資料14,470冊に加え、帝国学士院会員の岡本則録(1847~1931)の旧蔵書2,667冊その他からなる合計18,335冊の大コレクションです。林鶴一は、当時和算研究の第一人者であり、関流和算の免許皆伝の継承者でもありました。このコレクションに狩野文庫に含まれる和算関係資料を合わせると全国和算資料の3分の2を占めるといわれております。

コレクションの特徴は、主要な刊本が網羅されている一方で地方の和算家の原本・稿本類が多く集められていること、和算書以外に天文書、暦算書、測量に関する資料を含んでいるということです。特に貴重なものとしては、毛利重能撰「割算書」(1622年刊)、その弟子今村知商撰『豎亥録』(1639年刊)等があります。また、各種『塵劫記』についても、質量ともに世界最高水準の収蔵です。本文庫は長く理学部数学教室で保管されてきましたが、1968年に文学部附属日本文化研究施設に移管され、さらに1979年に附属図書館本館に移されました。

「和算ポータル」は2002年に当時の附属図書館長であった小田忠雄教授が作成、公開した「東北大学附属図書館所蔵和算・理工医古典和漢書目録データベース」に基づき、野家啓一教授(現館長)の下、2003年度から2008年度にかけて文部科学省科学補助金研究成果公開促進経費の交付を受け、5ヵ年計画で資料の撮影・電子化したものです。所蔵する和算関係資料が膨大なため、「江戸前期刊本」「江戸後期刊本」「写本」「塵劫記」などのテーマ別に資料を選択し、電子化しました。これによって和算関係資料の6割以上が電子化され、同一資料の複数の版や写本の本文データが提供され、複数の和算資料の比較が容易に比較できるようになりました。現在、世界中から年間1,400万件のアクセスがあります。なお現在は、「和算ポータル」は「和算資料データベース」と名を変えて、附属図書館で提供してきた古典・貴重資料等のデジタル画像を一元化して提

供する「東北大学デジタルコレクション」に統合しました。「漱石文庫データベース」もありますので、どうぞご覧ください。

この出版賞を契機に「和算資料データベース」(旧「和算ポータル」)によって東北大学が所蔵する和算関係資料が広く活用され、世界の数学会、大学における教育研究のみならず、郷土史等の研究、学習者や一般市民の生涯教育にとって役立つことを願っています。

東北大学附属図書館副館長 柳澤輝行